

令和元年6月14日現在

機関番号：53401

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2017～2018

課題番号：17H06924

研究課題名(和文) 宇久町方言の包括的記述による重層的日本語史研究

研究課題名(英文) Multi-layered Japanese language history research by comprehensive description of Ukumachi dialect

研究代表者

門屋 飛央 (KADOYA, Takateru)

福井工業高等専門学校・一般科目(人文系)・助教

研究者番号：60805878

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,500,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、長崎県五島列島に位置する宇久町方言を記述することを行った。「形容詞連用形+ニ」による副詞的用法など、当該方言には、共通語と異なる文法現象がみられる。包括的な記述を行うほか、このような現象も考察した。さらに、宇久島神社の文献調査を行い、文庫目録を作成した。宇久町方言のほか、近隣の島である敷路木島方言の調査を行った。敷路木島方言には、「動詞語幹-a-Ns-e」という、親しい目上への行為指示を行う敬語形式がある。この形式は宇久町方言にみられないため、五島列島方言を考察するうえで、興味深い形式だといえる。これらの研究成果により、方言研究が日本語史研究を進めることにつながったと考える。

研究成果の学術的意義や社会的意義

これからの日本語史研究は、各地の方言の言語体系の記述を増やしていくことが、その発展につながると考える。各地の方言の記述が、日本語史に中央語の通時的視点だけではなく、通方言的な視点を持たせることができるためである。中央語にはみられない言語現象が、方言にはみられることがある。方言の多様性を記述することが、日本語史のみならず、世界の言語との対照研究にもつながっていくと考える。さらに、各地の消滅しつつある方言を記述することは、当該地域に住む方々にとって言語復興や言語維持の資料を提供することになると考える。

研究成果の概要(英文)： In this study descriptive research was conducted on the dialect in Ukumachi, located in Goto Islands, Nagasaki. Phenomena of different adjective usage from the common Japanese, such as “adjective converb forms + ni,” could be seen in this dialect. Besides making a comprehensive description, I considered such phenomena. I also conducted a literature survey of Ukujima shrine and made a catalog of the books there.

In addition to Ukumachi dialect, I surveyed the dialect used in Yaburokishima, a nearby island. In this dialect there is an honorific form called “verb stem-a-Ns-e” by which an order can be done to a superior in a friendly way. Since this form cannot be found in Ukumachi dialect, it is an interesting form considering the dialect of Goto Islands. Through these results, the development of dialect research led to that of the study of Japanese language history.

研究分野：日本語学

キーワード：日本語学 九州方言 日本語史 五島列島方言

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

奥村(1990)、迫野(1998)、小林(2004)など、方言を通して日本語史を考察する研究は、数多くなされてきた。これらの研究は、方言を通して中央語史の研究を豊かにするものであった。しかし、方言は、共通語と異なるひとつの言語体系をもっており、それらの方言の集合体が日本語である。近年になり、小林他(2006)など、方言の言語体系を記述し、その成果を中央語や他の方言と対照する研究がなされている。これは、方言も含めた日本語史の研究である。ただし、まだその成果は少なく、各地の方言の言語体系の記述が少ない状況であった。

### 2. 研究の目的

本研究は、九州地方の五島列島方言に含まれる、長崎県佐世保市宇久町の方言を包括的に記述することで、中央語とは異なる日本語をみた。これまで記述があまりなされてこなかった五島列島方言を包括的に記述することで、本研究のモデルを示した。

本研究の目的は、以下の2つであった。

#### (1) 宇久町方言の記述文法書の完成

宇久町にはそれぞれの集落があり、十郷に分かれている。その十郷のなかでも、平(たいら)郷は、佐世保市本土からのフェリーが発着するなど、経済的な中心地である。その平郷の方言を、平方言と呼ぶ。この平方言を包括的に記述した文法書を作成する。

#### (2) 宇久町に所蔵される文献目録の完成

宇久町には、壇ノ浦の合戦で敗れた平家盛が、宇久島に流れ着き、藩を興したという伝説があり、後にこの藩は、同じ五島列島の福江島に移り、五島藩となって、五島列島全体を治めたという。現在でも、宇久島神社などには、多くの文献があり、未整理のままになっている。これらの歴史的な資料を調査し、目録を作成することが、文学や史学の研究の一助になると考える。これらの文献調査を行い、宇久町所蔵の資料を整理する。

### 3. 研究の方法

#### (1) 宇久町方言の記述文法書の完成

宇久町平郷のインフォーマントに、方言調査を行う。方言調査は、面接調査と自然談話収録を行う。記述文法書には、「音韻論」、「形態論」、「統語論」、「意味論」の4章を立て、最後に語彙集も収録する。記述文法書の項目は森他(2015)を参考にする。

#### (2) 宇久町に所蔵される文献目録の完成

当初より、文庫が確認されていた宇久島神社の調査を行う。まず、研究代表者のみで予備調査を行い、文庫の規模を確認する。その後、研究協力者を交え、文献目録の調査に必要な日数や人員を話し合いによって決定する。文献調査を実施した後、目録を作成する。さらに、発表すべき資料があれば、その翻刻や解題を作成する。

### 4. 研究成果

#### (1) 主な成果

##### 平方言の「形容詞連用形+ニ」の考察

平方言では、形容詞の副詞的用法に2つの形式がみられる。ひとつは「ミヒコゆー」(短く言う)のように、連用形が直接接続する形式で、もうひとつは「ミヒコニゆー」(短く言う)のように、その連用形に「ニ」が接続する形式である。この2つの副詞的用法の意味の違いについて考察を行った。このテーマについて、2018年の九州大学国語国文学会で発表を行った。現在、学会発表で受けた質疑をもとに結論を考察しなおしている。考察ができ次第、論文化に向けて執筆にとりかかる。

##### その他の記述の進展

平方言の包括的な記述のために、2018年2月、3月、5月、9月の4回にわたり方言調査を行った。調査内容は、上述の「形容詞連用形+ニ」のほか、格助詞、認識的条件文などの条件節が中心であった。これらの調査により、平方言の記述が進展し、方言の言語体系を明らかにするという目標に進展がみられた。

##### 『長崎県小値賀町藪路木島方言集～無人になった島のことばの記録～』の監修・編集

宇久町方言を研究している縁で、同じ五島列島の藪路木島方言の方言集を作っていた古川初義氏と出会った。その方言集に、長崎大学の前田桂子氏とともに監修・編集という立場で参加した。氏の著作は、2017年10月に『長崎県小値賀町藪路木島方言集～無人になった島のことばの記録～』という書名で自費出版された。

### 藪路木島方言の敬語形式「動詞語幹-a-Ns-e」の考察

藪路木島方言は、長崎県小値賀町に属する。宇久町とは市町村が異なるが、宇久町のある宇久島は、小値賀島の近隣の島であり、方言区画を考察するうえで、重要な位置にあると考える。

その藪路木島方言では、立てるべき人物への命令文に、「飲まんセ」(飲みなさい)のような「動詞語幹-a-Ns-e」の形式を用いる。これは、「あんま飲まんスナ」(あまり飲まないでください)のように、禁止文でもみられる。この形式は、話し手が目の前の聞き手へ命令する際にしか使用できないため、命令文を直接話法で引用した文では使用できない。直接相手に働きかける場合に用いられる形式である。また、相手への「勤め」のように、話し手に利益がなく、さらに聞き手へも強制力がないような文でも用いられる。例えば、「体んため 朝めわ はよかー走らんセよ」(体のために朝は早くから走りなさいよ)のような文がある。

日高(2013)では、大分県方言には同様の形式がみられることが述べられている。しかし、藪路木島近隣の平方言でみられなかった。五島列島方言を考察するうえで、大変興味深い形式である。このテーマについて、2019年の九州方言研究会で発表を行った。現在、論文化に向けて執筆にとりかかっている。

### 自然談話の収録

平方言と藪路木島方言の自然談話を収録することができた。平方言の自然談話は、3名のインフォーマントによるものである。藪路木島方言の自然談話は、2名のインフォーマントによるものである。現在、文字化する部分の選定を行い、書き起こしを行っている。これらの談話を書き起こし、当該地域の方言復興への要請があった場合に、答えられるように準備を行っている。

### 宇久島神社の文庫目録の発表

宇久島神社の文献調査を行い、その目録を発表した。文献調査は、研究協力者の3名とともに行った。2018年3月に予備調査を行い、2019年3月に文献調査を行った。調査結果である文庫目録は、『文献探究』57号に発表した。

## (2) 得られた成果の国内における位置づけとインパクト

### 重層的な日本語史の考察

平方言の「形容詞連用形+ニ」という副詞的用法や、藪路木島方言の「動詞語幹-a-Ns-e」という敬語形式など、五島列島方言で記述されていなかった現象を考察した。このような文法現象の考察が、ひとつの方言のなかで記述され、理解されるのではなく、日本語史研究という大きな枠組みに位置づける考察となるようにしなければならない。本研究は、その一歩を示していると考えられる。

### 歴史的な資料の紹介による、文学や史学への寄与

宇久島神社の文庫目録を作成し、発表したことによって、これまで知られていなかった文庫を、広く紹介することができた。これにより、文学や史学の研究にも寄与することができると考える。また、宇久島神社の文献調査は、近世文学を専門としている方を研究協力者に交えて行った。それにより、お互いの研究成果を調査に活かすことができたと考えられる。

## (3) 今後の展望

### 宇久町方言の記述文法書の完成

今回の調査期間で完成まで至らなかった記述文法書の完成を目指す。調査は進んでおり、インフォーマントも増やすことができている。着実に記述を重ねていき、まずは平方言の記述文法書を完成させる。その後は、島内の方言差も含めた記述文法書を完成させる。宇久町は、近世期には二藩に分かれて統治されており、昭和30年まで町村も別であった。中村(2019)では、宇久町野方(のがた)郷と平郷に、方言差があることが示唆されている。したがって、平方言を軸として、島内の方言調査を進める。完成した記述文法書は、当該地域の方に利用しやすいように製本し、図書館等に寄贈する。

### 五島列島方言の包括的記述

宇久町の記述文法書をもとに、五島列島各地の方言記述を行い、さらなる研究の充実を図る。これまであまり記述のなかった五島列島方言を考察することで、九州方言全体の方言研究にも寄与するところが大きいと考える。

### 五島列島内の文庫の整理・調査

長崎県には、『長崎歳時記』(1797年成立)、『筑紫方言(つくしことば)』(1801年前後か化政期頃成立)、『筑紫紀行』(1802年刊)をはじめ、近世期の長崎方言に言及がある資料がいくつも存在する。同様の資料が五島列島にもある可能性がある。宇久町にも、まだ整理が行われていない文庫があると考えられる。五島列島各地に文庫は存在するものの、これまで調査されていない文庫が多いと考えられるため、これらの歴史的な資料を調査する。

## 引用文献

- 奥村三雄(1990)『方言国語史研究』東京堂出版  
小林隆(2004)『方言学的日本語史の方法』ひつじ書房  
小林隆、佐々木冠、渋谷勝己、工藤真由美、井上優、日高水穂(2006)『シリーズ方言学2 方言の文法』岩波書店  
迫野虔徳(1998)『文献方言史研究』清文堂出版  
中村京介(2019)「長崎県五島列島宇久島野方方言の文法概説」修士論文、東京外国語大学。  
日高貢一郎(2013)「「豊日方言」の研究課題」『国語の研究』  
森勇太、平塚雄亮、黒木邦彦編(2015)『甌島里方言記述文法書』大学共同利用機関法人人間文化研究機構連携研究「アジアにおける自然と文化の重層的関係の歴史的解明」サブプロジェクト(研究代表者・窪園晴夫)「鹿児島県甌島の限界集落における絶滅危機方言のアクセント調査研究」研究成果報告書

## 5. 主な発表論文等

### 〔雑誌論文〕(計 1 件)

門屋飛央、蛭沼芽衣、村上義明、吉田宰、宇久島神社所蔵「神浦月川神職家古文書」目録、文献探究、57、2019年、pp.1-15

### 〔学会発表〕(計 3 件)

門屋飛央、長崎県小値賀町藪路木島方言の敬語形式セについて、九州方言研究会、2019年

門屋飛央、佐世保市宇久町平方言の「形容詞連用形+ニ」による副詞的用法、九州大学国語国文学会、2018年

門屋飛央、北松方言における小値賀島藪路木島方言の特徴について『藪路木島方言集(仮題)』を用いた方言記述、第67回西日本国語国文学会、2017年

### 〔図書〕(計 1 件)

古川初義著 前田桂子・門屋飛央監修・編集、私家版、長崎県小値賀町藪路木島方言集～無人になった島のことばの記録～、2017年、331

### 〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

取得状況(計 0 件)

### 〔その他〕

なし

## 6. 研究組織

### (1)研究分担者

なし

### (2)研究協力者

研究協力者氏名：蛭沼芽衣

ローマ字氏名：(HIRUNUMA, Mei)

研究協力者氏名：村上義明

ローマ字氏名：(MURAKAMI, Yoshiaki)

研究協力者氏名：吉田 宰

ローマ字氏名：(YOSHIDA, Tsukasa)

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。